

# れきしみち

- 2. 特別展「江戸の遊び絵づくし」
- 4. 終戦 75 周年記念企画展「描かれた戦争－警察官が見た戦中戦後の愛知－」
- 6. 先行紹介！開館 30 周年記念特別展「家康と松平一族」
- 7. 連載「安城歴史散策 風を感じて歴史を歩く 6」
- 8. 安祥文化のさとまつりのご案内

2020.10  
No.118



「名古屋城とも今夜でおわかれだ…」



## 特集：①江戸の遊び絵づくし ②描かれた戦争

写真中央：「五拾三次之内猫之怪」歌川芳藤  
写真左：「風流さや絵(花魁)」歌川芳虎

－警察官が見た戦中戦後の愛知－



等覚寺五井松平家墓所  
(千葉県銚子市)



Human face earthenware



安城市  
歴史博物館

Anjo city Museum of History

戦国の秋まつり

安祥文化の

第15回

# さとまつり

令和2年

10月17日(土) 18日(日) 9:00~16:00

会場 安祥文化のさと ・歴史博物館 ・市民ギャラリー ・埋蔵文化財センター  
・安祥公民館 ・安祥城址公園

同時開催 第29回 市民陶芸まつり

10/17(土) 10/18(日)  
9:00~16:00 9:00~12:00  
【会場】安祥公民館

作品展示  
公民館の自主グループ等の  
作品を展示します。

陶芸作品チャリティーバザー  
市内の陶芸グループ等にご協力いただき、  
色々な陶芸作品を手ごろな価格で販売します。  
10/17(土)「ぼてとぼてと」さんによるお菓子販売

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定員数・開催方法や日時・内容等を変更する場合がありますので、最新情報はHPIにてご確認ください。

安城市民ギャラリーよりお知らせ

市民ギャラリー企画展  
「動きの表現 -からだ・もの-」



乃村豊和(微かな旋律)

本市では、地元ゆかりの美術作家の作品を  
収集してきました。本展では、「動き」をテーマ  
に、市民ギャラリーのコレクションの中から選  
りすぐった作品を紹介します。

【開催期間】 令和2年10/9(金)~10/18(日)  
【時間】 9:00 ~ 17:00(最終日は16:00まで)  
【場所】 展示室D・E  
【観覧料】 無料

第77回 安美展



安美展は安城市唯一の公式の公募型美術  
作品展示会で、市内にとどまらず、広く全国か  
ら募った美術作品を展示します。

【前期】 <日本画、書、工芸・彫刻>  
令和2年10/30(金)~11/8(日)  
【後期】 <洋画、写真>  
令和2年11/13(金)~11/23(月・祝)  
【時間】 9:00 ~ 17:00  
(前・後期とも最終日は16:00まで)  
【場所】 展示室全館  
【観覧料】 無料

## 安祥文化のさと

「安祥文化のさと」とは安城市にある松平氏四代50年の  
居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

【全館共通事項】

住所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地  
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)

安城市歴史博物館 開館時間 / 9:00~17:00  
TEL:0566-77-6655 FAX:0566-77-6600

安城市民ギャラリー 開館時間 / 9:00~17:00  
TEL:0566-77-6853 FAX:0566-77-4491

安城市埋蔵文化財センター 開館時間 / 9:00~17:00  
TEL:0566-77-4477 FAX:0566-77-6600

安祥公民館 開館時間 / 9:00~21:00  
TEL:0566-77-5070 FAX:0566-77-6062

公式HP、SNSもご覧ください

安城市歴史博物館

URL / <https://ansyobunka.jp/>

特別展

# 江戸の遊び絵

令和2年

10月3日(土)~11月15日(日)

観覧料 500円(400円/団体・20名様以上)  
※中学生以下は無料

江戸時代の庶民が楽しんだ遊び心で描いた浮世絵「遊び絵」。遊び絵とは、主に浮世絵の「戯画」や「おもちゃ絵」に分類される作品のうち、遊び心で描いた造形性の高い絵画をさします。  
この展覧会では、江戸の絵師や版元が工夫を凝らして作成した「遊び絵の世界を七つのテーマで構成した一〇点を展示します。



文責：伊藤基之

## 3 幸せはこぶ ラッキーアイテム

江戸時代には、幸運の時期(有掛)と不運の時期(無掛)が二二年の周期で繰り返すと信じられていました。そして有掛に入る人へは、「福」に通じる「ふ」から始まる物ばかりを描いた「有掛絵」をお祝いに贈ることが流行しました。作品3は眉は「筆」、目は「河豚」、鼻は「ふ」の字、頭は「袋」などで構成された福助の有掛絵です。



3. 歌川芳藤「有掛絵 无尽の福助」安政5年(1858)

## 4 チャーリビリー...

### 江戸っ子と知恵くらべ

描かれた絵や文字から言葉や意味を読み解く「クイズ」のような浮世絵を「判じ絵」といいます。幕末に流行し、特定のテーマ(魚、武者、国など)の判じ絵をまとめた「もの尽くし判じ物(絵)」が庶民の娯楽として親しまれました。作品4は魚の判じ絵で、「歯」に背の濁点で「ハゼ」となります。



4. 二代歌川国盛「さかなのはんじもの上」(部分) 嘉永2年(1849)頃

他にも輪郭線に囲まれた文字を考える「文字絵」、カレンダーの一種で絵の中に隠された月の数字を探す「大小暦」、言葉の語呂合わせで遊ぶ「地口絵」など、ちよつとした謎解きを楽しめる浮世絵がたくさんあります。

## 5 ふしぎなからだ

### 合体・あべこべ 顔三つ!?



2. 歌川貞景「五十童図」天保期(1830~44)頃

右の作品2をよくみると、頭や体の一部を何人かで共有しているのがわかります。五人分の頭で一〇人を数える「五十童体図」と呼ばれるものです。だまし絵の一種で、作品2が元となり、時代と絵師の表現により様々なバリエーションが生まれました。また、絵の上下を逆さにすると別の顔になる「上下絵」や、絵の一部に顔や体などの絵を潜ませた「隠し絵」も、視覚上のマジックを用いた作品です。

# 江戸の遊び絵

## 6 よって、たかって、こしらえる



たくさんの人や物を寄せ集めて人物などを形づくる趣向の絵を「寄せ絵」といいます。作品1は歌川国芳の寄せ絵の傑作といわれています。裸の男たちが集まって形づくる珍妙な顔ですが、よく見ると眉毛は禪、唇は赤禪でできています。体は歌舞伎にもよく登場する鎌倉時代の武将朝比奈三郎義秀の後ろ姿。

1. 歌川国芳「みかけハこ八るがとんだい人だ」復刻版(主版:嘉永期(1850年頃))

## 7 身振り手振り

### これぞ〜! 犬のポーズ



5. 歌川豊国「犬の介科」文化6年(1809)

自分の体と身近な道具を使った物真似遊びが宴会の余興で流行し、そのお手本となったのが「身振絵」です。同じように自分の体を使った遊びでは、行灯の光を使った手影絵や人体影絵も人気で、そのお手本となる「影絵」も出版されました。作品5は、手拭いや着物をうまく使って犬のポーズをとった身振絵です。

## 7 人も世相も 茶化しちやえ!



これまで紹介した遊び絵の多くで、浮世絵師たちはサインの末尾に「戯画」と記しています。江戸時代後期、多彩な戯画を精力的に発表し、この分野の第一人者と評されたのが歌川国芳です。一見ほのぼのとした表現の裏に風刺精神を潜ませて、江戸っ子の共感を呼びました。作品7は天保改革で禁止されていた役者似顔絵を、あたかも漆喰の壁を釘で引っ掻いたように描かれた「釘絵」です。取り締まりを小気味よくなわす国芳の反骨精神が込められています。また、作品中央に描かれた歌舞伎怪談物に登場する手拭いを被って踊る猫は、まさに「大でき!」



7. 歌川国芳「荷宝蔵壁のむだ書(黄腰壁)」(部分) 嘉永元年(1848)頃

## 8 目みんが大好き!

### おもちゃ箱

子どもたちが遊ぶために作られた浮世絵を総じて「おもちゃ絵」といいます。江戸時代には「手遊び絵」と呼ばれ、今も残る福笑いや双六、切り取って組み立てる「組上絵」、折ったり畳んだりすると絵柄が変わる「折り替り絵」など多種多彩です。作品6は「目鬘」というおもちゃ絵で、切り取って紐を付け、アイマスクのように目にあてて楽しめます。



6. 作者未詳「風流 百目玉」 幕末期

## 体験コーナー

会場では、影絵や判じ絵などの楽しみ方を体験できるコーナーも設けます。見て、読んで、触れて、幅広い年齢層の方々に江戸庶民の遊び心を楽しんでいただける展覧会です。



## 関連事業

■記念講演会 ※要申込み  
「江戸のなぞなぞ 判じ絵の世界」  
[日時] 10月24日(土) 14:00~  
[場所] 安城市歴史博物館 講座室  
[講師] 岩崎均史氏(静岡県東海道広重美術館館長)  
[定員] 15名

■記念講演会 ※要申込み  
「浮世絵の戯画をたのしむ」  
[日時] 10月31日(土) 14:00~  
[場所] 安城市歴史博物館 講座室  
[講師] 神谷浩氏(徳川美術館副館長)  
[定員] 15名



申込方法 締切:10月11日(日)必着  
希望する講演会名・〒住所・参加者の氏名・電話番号を明記し、  
●はがき/〒446-0026安城市城堀30  
●FAX / 0566-77-6600  
●メール/mailto:ansyobunka.jp  
にて歴史博物館へ。1件の申込みにつき1名まで。定員を超えた場合は抽選。

お問合せ  
安城市歴史博物館 TEL:0566-77-6655

関連イベント 期間:10月3日(土)~11月15日(日)  
「おもちゃ絵で遊ぼう」(対象:特別展観覧者)  
「よって、たかって、こしらえる!」フォトスポット

※都合により日時・内容等変更する場合があります。ご了承ください。



# 家康と松平一族

会期 令和三年 一月三十日(土)～三月七日(日)

【観覧料】八〇〇円(中学生以下無料)

令和二年度も半ばを過ぎ、開館三〇周年記念特別展「家康と松平一族」の開催まで半年を切りました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、県外調査に出かけることが難しく、現地での資料調査も少し足踏み状態です。今回は、前回に引き続き、昨年度行った関東方面の現地踏査の報告を行います。

## 旗本として

### 家康を支えた松平家

松平一族は、家康とともに戦国乱世を駆け抜け、近世以降には大名となり、各地の藩主として幕藩体制を支えました。また、中には旗本として將軍家を支えた家もありました。今回はその中から五井松平家と竹谷松平家のゆかりの地を紹介します。

千葉県銚子市の等覚寺は曹洞宗の寺院で、寺内にはこの地域を領地とした五井松平家の七代忠実以降の

代々の墓所があります。五井松平家は、松平三代信光の子忠景を祖とし、信光から五井(蒲郡市)の地を与えられたことに始まります。六代伊昌が天正十八年(一五九〇)の家康の関東移封に伴い、下総国印旛郡に二〇〇〇石与えられました。七代



等覚寺五井松平家墓所(千葉県銚子市)

甚大な被害をもたらしたということを実感しました。現在は少しずつですが復旧の整備が進められているようです。埼玉県指定史跡となっている雉岡城(埼玉県本庄市)は、かつては八幡山城とも呼ばれ、竹谷



雉岡城(埼玉県本庄市)

松平家の居城でした。竹谷松平家は、信光の子守家を祖とし、竹谷(蒲郡市)の地を与えられたことに始まります。天正十八年、六代家清が武蔵国児玉郡八幡山に一万石の所領を与えられ八幡山城主となり、慶長六年(一六〇〇)の関ヶ原の戦い後、三河国吉田(豊橋市)に転封となり八幡山城は廃城となりました。現在、城址の一部が公園として整備されており、土塁や水堀、空堀などが残されています。竹谷松平家は、三河国吉田で三万石の大名となりましたが、七代忠清に嫡子がなく所領没収となりました。その後、弟の清昌が三河国宝飯郡西郡(蒲郡市)に五〇〇〇石を賜り交代寄合となり、明治に至りました。

いよいよ調査も佳境に差し掛かってきました。一日も早い新型コロナウイルスの収束を願いつつ、少しでも皆様に特別展に足を運んでいただけるように着々と準備を進めてまいります。お楽しみください。

文責：野上真由美

## 安城歴史散策

文責：片岡晃(安城市歴史博物館館長)

# 風を感じて歴史を歩く6—高棚小学校区—

今回は三つ目の赴任地、高棚小学校区の歴史散歩をします。



## 芦池論争

高棚小学校の北方には、かつて芦池という大きな溜池がありました。元禄十五年(一七〇七)の高棚村絵図には芦池が描かれています。寛政十二年(一八〇〇)の芦池絵図によれば、北部に野田村山、東部には新池山があり、これらの山に降った雨が沼地に溜まり、沼地に堤防を築いて池を広げていったものと思われ、親池の芦池から子池の新池、蛭池、柿池等につながれ、水の調節なども行われ、子池から用水路が引かれたようです。明治用水の開削前は、高棚村農民の生命線でありました。池の水だけでなく、池及び境界に生える葎は農家にとって貴重な資源であり、草刈り境をめぐって何度も争論が起きています。特に寛政十一年の芦池草刈論争では、高棚村と野田村、半城土村は激しく争い、赤坂代官所の指導では収まらず、江戸奉行所まで送られる事件にもなりました。

しかし明治用水開削後、溜池は不用となり芦池も開墾され水田となりました。



石川喜平像(高棚小)

に見られた揚げ川(橋渡し)による用水)が再現されています。「喜平あつて弥厚あり」と言えるほど、用水開削の功



喜平公園

都築弥厚が喜平に測量を依頼したと言われていますが、「弥厚翁」を読むと、幾つかの謎が浮かんできます。弥厚が測量を直接依頼したのは、喜平と浅右衛門の両者なのか、喜平だけか、浅右衛門だけか。また、喜平と浅右衛門が測量を行ったのは、願書を提出した文政十年(一八二七)の翌年であるとする、最初の測量は誰が行ったのか、喜平・浅右衛門に依頼したのはいつなのか。謎解きは今後の課題です。

## 喜平あつて弥厚あり

高棚小学校正門付近には、明治用水の功労者、石川喜平直頼(以下、喜平とす)の銅像があります。昭和四十九年(一九七四)開校百年記念に、喜平の功績を称えて建てたものです。この小学校の銅像を起点に喜平にまつわる史跡等をめぐります。

喜平は関流和算の流れを汲み、当時、碧海郡における和算家の中心的な存在であった合歙木村(岡崎市)の清水林直に学びました。片道一〇キロもある林直の塾に通い、文化九年(一八三二)、林直から和算免許を受けました。喜平は、村内に限らず、岡崎・刈谷・西端村等にも多くの門弟を持ち、林直と同様に、碧海郡の和算家の中心的な存在になりました。さらに、天文学・歴史も極めました。

高棚小学校から空臨寺のそばを通り、喜平公園がある高棚神明神社に向かいます。空臨寺は、徳川家康が岡崎城在城時に、生母於大の方を訪ねる際に、しばしば立ち寄ったと言われています。寺には、家康より拝領の茶碗が残されています。喜平公園は、郷土の偉人の業績を称え、昔、町内に

労者を町民は誇りに思っています。喜平公園から南進し、郷内の古道を歩き、喜平とその弟子、浅右衛門の墓がある高棚文化会館東の墓地に向かいます。

## 喜平と共に

### 石川浅右衛門



浅右衛門の墓

「南無妙法蓮華経」と刻まれた大きな墓石は、浅右衛門の墓です。彼は教会場を開くほど、日蓮宗の熱心な門徒でもありました。喜平の門人、浅右衛門は大工でした。測量設計に長じ、仕事先の東端の醸造家深津与三郎の依頼を受けて前浜新田の防波堤を設計しました。施工後の堤防は決壊することがなく浅右衛門は名声を得ていました。